

新型コロナウイルスとの闘いを振り返って

2022年は、私たちにとって非常に試練の年でした。1月に第6波、そして7月には第7波が襲来し、三重県でも1日の感染者数が過去最多の4,600人を記録。第7波だけで約12万人の感染者が発生するという、これまでにない規模となりました。そして11月15日には「第8波の始まり」が宣言されました。この記事が掲載される頃には、どのような感染状況になっているのでしょうか。

当センターは国が指定する第2種感染症指定病院であり、結核やインフルエンザの患者さんを含む感染症治療に取り組んできました。新型コロナウイルスパンデミックにおいては、2020年1月から2022年11月15日までに約870人の入院患者を受け入れ、その中には119人の妊婦さんが含まれています。分娩や帝王切開は医療スタッフへの感染リスクが高い中、県内で感染したほとんどの妊婦さんを受け入れる体制を整えました。



また、新型コロナの影響で最も課題となったのは救急医療です。発熱患者を乗せた救急車が病院の受け入れを断られ、津地区では救急搬送が大幅に遅延する状況となりました。当センターでは第5波以降、24時間体制でコロナ患者を受け入れるとともに、一般の救急患者にも対応できる体制を整備しました。第7波ではコロナ病床がほぼ満床となり、院内感染による病棟閉鎖という危機にも直面しましたが、職員全員で団結し、津市の医療を守り抜く努力を続けました。

これまで多くの近隣医療機関の皆さま、津および久居一志地区医師会、県調整本部、保健所、津市、救急隊の皆さまにご支援をいただき、地域連携の重要性を改めて実感しました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

しかし現状、津地区のコロナ対応が十分とは言えません。第7波だけで県内では高齢者を中心に220人が命を落としました。第8波ではコロナとインフルエンザの同時流行が予測され、感染者数がさらに増加する可能性があります。このような中で、より多くの医療機関や医療者がコロナ対応に関わっていただけることを強く願っています。また、地域住民の皆さまには、マスク会食や換気など基本的な感染予防策の徹底をお願いしたいと思います。

当センターはこれからも地域に信頼される医療機関を目指し、努力してまいります。
引き続きご支援とご協力を賜れば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

(三重中央だより 2023 年年頭のご挨拶より 2022年 11 月執筆)